

改訂化学の新演習 正誤表 1刷用

【注】「電子(を)吸引(性・力)」→「電子(を)求引(性・力)」は、どちらの表記も存在しますが後者がより適切と判断して修正しました。数が多いので正誤表には入れていません。

ページ	問題番号など	訂正前	訂正前(脚)	訂正後(正)
本冊	14	21 (2)	---	〈文末に追加〉 ただし、O原子は3個のTi原子に正三角形の頂点方向から取り囲まれているものとする。
本冊	24	42 (4)	1行目	存在割合が3番目に多い
本冊	30	---	ページ欄外	$10 < \sup > 3 < / \sup >$
本冊	30	51 (1)	---	〈問題文を変更〉 気体の状態方程式 $PV = nRT$ から、気体の密度 $d = \frac{PM}{RT}$ を求める式を導く。ただし、 $P$ は気体の圧力、 $V$ は気体の体積、 $M$ は気体の分子量を表し、 $T$ は絶対温度、 $n$ は気体定数とする。
本冊	32	---	ページ欄外	$10 < \sup > 3 < / \sup >$
本冊	34	---	ページ欄外	$10 < \sup > 3 < / \sup >$
本冊	36	63 (3)	---	〈文末に追加〉 (気体定数 $R = 8.3 \times 10^3 \text{ Pa} \cdot \text{L} / (\text{K} \cdot \text{mol})$ ) とする。)
本冊	40	73	6行目	〈文末に追加〉 (気体定数 $R = 8.3 \times 10^3 \text{ Pa} \cdot \text{L} / (\text{K} \cdot \text{mol})$ ) とする。)
本冊	46	84 (6)	1行目	[nm]
本冊	48	87	22行目	[cm]
本冊	48	87	25~26行目	混合物(共晶)のみが析出する すべて固体で、氷と $\text{NaCl} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ の含水塩が共存する範囲であり、 $\sim \text{NaCl} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ の含水塩と共晶の共存する範囲である。
本冊	58	108 (1)	1~2行目	混合物(共晶)のみが一緒に析出する
本冊	69	128 (5)	2行目	反応物の濃度 $C$ の変化する速さ ヨウ化水素の分解速度
本冊	70	129	反応式の左辺	相対温度 +KOH
本冊	70	129 (1)	---	①の化学平衡の平衡定数 $K_c$ は、次式で表すことができる。 $K_c = \frac{[\text{H}_2\text{O}]^2}{[\text{H}_2][\text{O}_2]}$ (18-クラウン-6・K錯体) / ([18-クラウン-6][K錯体])
本冊	71	---	ページ欄外	〈ページ左上に追加〉 問題130, 131で、必要があれば、水のイオン積 $K_w = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/L) を用いよ。
本冊	71	131 (4)	1行目	$\text{NH}_4\text{Cl}$ 水溶液100mLを
本冊	72	132	11行目	$\text{NH}_4\text{Cl}$ 水溶液150mLを
本冊	72	132 (2)	---	下の(4) モル濃度
本冊	74	---	ページ欄外	問題136~139で、必要があれば、水のイオン積 $K_w = 1.0 \times 10^{-14}$ (mol/L) を用いよ。
本冊	84	157	14行目	$[\text{CO}_3^{2-}] < \sup > 2 < / \sup >$
本冊	86	160 (2)	---	$[\text{Cl}^-] < \sup > 2 < / \sup >$
本冊	86	161	1行目	[A] ~ [D] の各実験を
本冊	100	185	10行目	, フェラデー定数 $F = 9.65 \times 10^4 \text{ C/mol}$
本冊	103	189	1行目	9.65
本冊	104	190	8行目	(削除)
本冊	104	190	9行目	また、任意の2つの金属の
本冊	104	190	15行目	1mol/Lの場合の値(これを標準起電力という)であり、
本冊	104	190	20行目	$E^\ominus$ : 起電力、 $E^\oplus$ : 標準起電力
本冊	104	190	表左列	$H_2$
本冊	104	190	表右列	標準電極電位 $E^\ominus$
本冊	104	190	表下	$E^\ominus$ の高い金属ほど
本冊	104	190 (1)	1行目	次の電池の起電力
本冊	113	205 (問)	4行目	次の電池反応の起電力 $\text{Si} = 28$
本冊	151	267 [B]	Dの構造式	(位置を入れ替える)
本冊	211	364	2行目	単量体は 単量体bは
別冊解答	2	1 解説(4)④	全文	同族元素のイオン半径は、原子半径と同様に説明できるが、同周期元素では、ふつう1, 2, 13族元素はその周期の1つ前の周期の貴ガスの電子配置をもつ陽イオンになるの、この順にイオン半径は小さくなる。16, 17族元素はその周期の貴ガスの電子配置をもつ陰イオンになるの、この順にイオン半径は大きくなる。つまり、原子番号とイオン半径は一定の傾向を示さない。
別冊解答	17	21 解説(2)	---	(図版リスト: 1に差し替え)
別冊解答	28	40 解説(3)	7行目	[mol]
別冊解答	28	40 参考	23行目	(数式中の数字2か所) 4
別冊解答	29	42 解答(4)	---	2.6%
別冊解答	29	42 解説(4)	1~6行目	2番目に存在割合の少ない $\text{BCl}_3$ 分子は、存在割合の少ない $\text{BCl}_2$ を含む。(3)の考察より、③と④では、 $0.76 \times 3 > 0.24$ より、③>④。よって、2番目に存在割合が少ないのは、 $\text{BCl}_2$ である。その存在割合 [%] は、 $0.20 \times 0.76 \times (0.24) \times 3 \times 100 = 2.64$ [%]
別冊解答	43	65 解答(3)	---	5.6g
別冊解答	43	65 解説(2)	4・9行目	52.4
別冊解答	43	65 解説(2)	10行目	42.88
別冊解答	43	65 解説(3)	5行目	52.4
別冊解答	43	65 解説(3)	6行目	5.6
別冊解答	70	102 解答(3)	---	7.0 [cm]
別冊解答	70	102 解説(3)	5~6行目	$(0.500/80) : (0.400/40) = 4.40 : z$ $\therefore z = 7.04 \approx 7.0$ (cm)
別冊解答	73	107 解答(4)	---	$\text{O}_2$ の生成速度 $0.080 \text{ mol/L} \cdot \text{分}$
別冊解答	73	107 解説(2)	2行目	$k = 0.294$ (分)
別冊解答	73	107 解説(3)	1行目	$= 0.294 \times 0.540 = 0.159$
別冊解答	73	107 解説(4)	5行目	0.5より、
別冊解答	73	107 解説(4)	6行目	$\text{NO}$ の生成速度 $0.159 \times 2 = 0.318$ (mol/L・分)
別冊解答	73	107 解説(4)	7行目	$\text{O}_2$ の生成速度 $0.159 \times 0.5 = 0.0794$ (mol/L・分)
別冊解答	74	108 解説(1)	---	$\frac{dC}{dt} = -kC$
別冊解答	74	108 解説(1)	2~3行目	反応物の濃度 $C$ の変化する速さ ヨウ化水素の分解速度
別冊解答	91	132 解説(2)	7行目	モル濃度
別冊解答	106	157 解答イ	---	$2.0 \times 10^{-6}$
別冊解答	107	157 解説(ii)	8行目	$1.21 \times 10^{-5}$
別冊解答	107	157 解説(ii)	9行目	$2.01 \times 10^{-6} \approx 2.0 \times 10^{-6}$
別冊解答	112	163 解説	12行目	$\text{NaC}_2\text{O}_4$
別冊解答	112	163 解説(2)	5行目	$\text{KMnO}_4$
別冊解答	112	163 解説(2)	7行目	$\text{C}_2\text{O}_4^{2-}$
別冊解答	113	164 解説(1)	4行目の反応式右辺	$\text{O}_2 + 2\text{H}^+$
別冊解答	129	187 解説(6)	7行目	4.05
別冊解答	131	190 解説(1)	6・19行目	電池
別冊解答	131	190 解説(2)	5行目	電池
別冊解答	131	190 解説(3)	2行目	希釈直後は
別冊解答	131	190 解説(3)	13行目	この電池の反応式は
別冊解答	131	190 参考	3・5行目	単極電位

